

A 189 保育所における幼児の食事摂取量に影響を及ぼす因子の検討
日本女大家政 ○丸山千寿子

目的 幼児の食事摂取量は個人差が大きく、各食事間の変動が激しいことばしばしば観察される。したがって成長期における幼児に一定量を毎日確実に与えることは困難である。そこで幼児の食事摂取量に影響を及ぼす因子を明らかにすべく、長期間の検討を試みた。今回は経過を報告する。

方法 東京郊内のS保育所で保育されている1~2才児(男子2名、女子5名)と3~5才児(男子6名、女子3名)計18名を対象とし、1985年5月から12月まで夏期休暇期間中を除き、平日に1~2才児は計20日、3~5才児は計15日調査を行なった。調査は、午前と午後の間食および昼食の食事摂取量と、保育時間内に摂取した水分摂取量を秤量法で測定し、温度、湿度、天候、昼食までの遊戯内容を記録した。また、対象幼児の母親にあらかじめアンケート用紙と食事および生活時間調査用紙を配布し、保育時間外での食事および水分摂取量と生活時間を記録してもらい、翌日回収し不明な点を確認した。

結果 保育所における調査日数は、1~2才児で15±5日、3~5才児で9.5±4日であり、のべ212日であった。保育所における食事摂取重量は1~2才児172±42g、3~5才児286±36gであり、水分摂取量は1~2才児177±63cc、3~5才児265±55ccとなった。1~2才児にくらべて3~5才児の方が、摂取重量に個人差が少ない傾向がみられた。